

2009年3月27日

シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金によるワークショップ
実施報告書

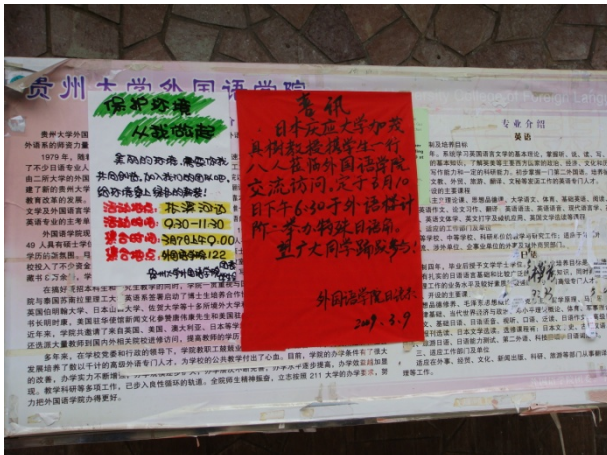
加茂具樹(総合政策学部)

- ・研究題目: 貴州大学(中国)との研究交流会
- ・日時: 2009年3月8日から3月14日
- ・場所: 貴州大学(中国)
- ・参加者: 慶應義塾大学側: 教員1名、学生(大学院生3名、学部生4名)
貴州大学側: 教員3名、学生(学部生約90名)

・概要

3月8日から3月14日にわたって、貴州大学外国語学院(中国)において研究交流会を開催した。本研究交流会の目的は以下の2点に整理できる。一つの目的は、学生が中国を多角的に理解するための手掛かりを模索することである。今日の日中間の研究交流は、かつてと比較して飛躍的に拡大し、深化してきたものの、そうした研究交流の中心は、比較的に経済が発展している沿海地域を中心としたものに限られている。研究交流が拡大し、深化してきた結果、学生の発展する中国の最先端の現状についての理解や関心はおおきく高まった。しかし、現実の中国の変化の可能性と限界は中国の比較的経済発展が遅れている内陸地域に存在している。こうした認識にもとづき本研究交流会は、貴州省という中国における最貧困省(チベットを除く)に位置する貴州大学との交流を一つの事例として、中国内陸部の比較的経済発展の遅れている地域にたいする関心と理解を高め、中国を多角的に理解するために不可欠な手掛かりを見出すことを目的としている。

いま一つの目的は、日中関係の現状と発展の可能性を学生が検討する手掛かりを得ることにある。貴州省貴陽市は対中経済協力における環境保護モデル都市として位置付けられている。今後の日中関係の中心となる環境協力を比較的長期にわたって推進してきており、貴陽市はその成果と問題点についての多くの経験を蓄積してきた。本研究交流会をすすめてゆくことをつうじて、貴陽市における日中間の環境協力の現状を理解し、今後の日中関係を展望する手掛かりを得ようとする。



以上の目的意識にもとづいて、3月9日、10日に貴州大学外国語学院との交流会を開催した。また3月13日には貴州大学外国語学院学部生とともに、貴州烏江セメント有限責任公司を訪問した。

(左: 貴州大学での交流会の案内)

(1) 貴州大学外国語学院交流会について

3月12日および13日に、貴州大学外国語学院において交流会を開催した。冒頭40分間、茂具樹が現在の日中関係および日本における中国研究の動向等についての講演をおこなった。その後、日中双方の学生による意見交換会をおこなった。なお、その概要については『貴州大学新聞網』に掲載されている(<http://news.gzu.edu.cn/News/200903/26332.html>)。

(2) 貴州烏江セメント有限責任公司訪問について



3月14日午後1時より、貴陽市にある貴州烏江セメント有限責任公司を訪問した。貴州大学外国語学部教員および学生、そして貴陽市環境保護局副局長が同行した。まず環境保護局副局長から、環境モデル都市としての貴陽市がここ数年円借款を利用して実施してきた、環境改善プロジェクトの実況と効果についての紹介があった。具体的には、貴州省における日本の環境協力の中心は「大気汚染」と「水汚染」問題である。貴州省は、大気汚染にたいしては1999年から2000年にかけて総額140億円の日本円借款を利用

して七つの環境保全関連プロジェクトが実施された。これからのプロジェクトの具体的取り組みの一つが、今回訪問した貴州烏江セメント有限責任公司にたいする大気汚染防止プロジェクトである。

同プロジェクトに関する環境保護事業の現状及び質疑応答を行った後(右写真)、工場を視察した。



以上